

教えて! Q&A

今日のテーマ



グローバル

新興国の金融政策

Q 新興国の金融政策は国ごとに方向性が違う？

A 国ごとに原油安、通貨安、財政要因などの物価への影響が異なるため、金融政策の方向性にも違いが表れています。

- 原油安により通貨安の影響を緩和してインフレが低下している国では、景気を支える利下げが来ています。一方、財政要因などでインフレが高止まりしている国では利上げにより景気回復が抑えられる傾向にあります。
- ブラジルでは、財政再建のためにガソリンなど公定価格が引き上げ方向にあり、原油安効果を一部相殺してインフレが高止まりし、利上げが実施されました。

- インド、トルコ、ロシアは、原油安による物価抑制効果が現れつつあり、利下げが実施されましたが、政策金利の水準は比較的高い状況です。
- その他の新興国でも、原油価格の下落による物価抑制効果が期待されますが、政策金利は既に比較的低いこともあり、据え置きが続いています。今後も利下げは慎重に検討される見込みです。

【新興国の金融政策と物価の動向】

国	政策金利 (%)	金融政策		物価		主な注目点	
		最近の政策金利変更	今後の方向性	直近の上昇率 (%)	6カ月前からの変化 (%)		
中国	5.60	昨年11月に引き下げ、2月5日から預金準備率引き下げ 1月15日の臨時会合で引き下げ、2月3日に据え置き	利下げ方向	+1.5	▲ 0.8	全国人民代表大会(全人代、3月開催予定)における政治・経済政策方針 モディノミクスによる経済構造改革の進展	
インド	7.75			+5.0	▲ 2.5		
トルコ	7.75			1月20日に引き下げ	+7.2		▲ 2.1
ロシア	15.00			1月30日に引き下げ	+15.0		+7.5
タイ	2.00	1月28日に据え置き	据え置き方向	▲ 0.4	▲ 2.6	物価の低下による利下げ余地拡大 エネルギー改革の進展 輸出の拡大などによる堅調な景気動向 原油安による物価抑制効果、通貨安による物価押し上げ効果 ジョコウィ大統領の経済構造改革	
メキシコ	3.00			1月29日に据え置き	+3.1		▲ 1.0
フィリピン	4.00			昨年12月11日に据え置き	+2.4		▲ 2.5
南アフリカ	5.75			1月29日に据え置き	+5.3		▲ 1.3
インドネシア	7.75			1月15日に据え置き	+7.0		+2.4
ブラジル	12.25	1月21日に3会合連続の引き上げ	利上げ方向	+7.1	+0.6	ガソリンなど公定価格引き上げ、干ばつの影響による農産物価格などの上昇	

(注) 政策金利は、2015年2月9日現在。物価上昇率は2015年1月の消費者物価指数(南アフリカ、中国、インドは2014年12月)の前年同月比。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。